

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三―五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

新年を迎え、ここ数日温かく穏やかな日が続いています。

今年は、オリンピック、パリンピックがあり報道関係も世界情勢の動向とともにスポーツ関係の情報が溢れています。

前橋では二〇一七年「前橋の美術2017」多様な美との対話」がアーツ前橋で開催されジャンルを越えた前橋にゆかりのある作家の展覧会として県内外から多くの人々に好評を得ました。

その後、新たな前橋の美術実行委員会によって何回も会議を重ねて「前橋の美術2020」トナリのビジュツ」を開催することになりました。今回は、人々の「つながり」をテーマにアーツ前橋を会場にした作品展示に加え、街なかでの活動として数カ所で作品を展示。また、学校や施設等への支援「アートゆい」をすでに実施。さらに市内11カ所のギャラリーと1カ所の私設美術館が協力企画展を開催しています。多くの展覧会、ギャラリートーク、イベントが実施されますので、是非お出かけください。久しぶりにアーツ前橋を中心とした街なか作品の展示、市内ギャラリー巡りをお楽しみください。

数日前にNHKプレミアムカフェのハイビジョン特集(再放送)で「その路地を右へ 森山大道・東京を撮る」を放送していました。森山大道は一九三八年生まれで世界でも高く評価されている写真家です。三島由紀夫の「薔薇刑」や土方巽「鎌鼬」の写真集で知られる細江英公の助手もつとめたことがある写真家です。

私事ですが、一昨年亡くなった父は、若い頃からカメラを持ち歩き、風景や人物、桐生を中心に昭和二十年以降の写真を仕事の合間に撮り続けていました。子供心に狭い暗室に一緒に入りツーンとする現像液の臭いの中で印画紙に浮き上がってくる映像は、まるで魔法のようでした。年末年始にかけての休暇では、膨大な数の写真を見ながら処分する写真の整理をしていました。桐生は戦災で焼けなかったので路地は今でも多く残っていますが、懐かしい木造の桐生駅や新川にあった児童遊園地は写真の中だけに生き残っていました。

第一勧銀のレンガの建物、戦後の風俗は、すっかり過去の遺物のように写真のみに止まっています。しかし路地だけは桐生の大きな遺産になっっています。カメラを持って自転車で桐生の町を撮影してみると銭湯や路地に雑然と置かれた植木や無造作に干された洗濯物に今でも昭和の臭いがしました。世界的な写真家の森山大道のレンズを通しての被写体は、なぜか父のレンズの向こうの景色のようでした。

(武藤)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

前橋の美術2020協力企画

可視2020

〈ノイエス企画〉

会期 一月二十五日(土)～二月二日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*初日の午後四時よりオープニングパーティーがあります。

出品作家

今井充俊 大島康幸 小淵俊夫 金井訓志

北村真行 坂本幸重 多胡 宏 豊嶋康男

原澤和彦 原 誠二

前橋の美術2020協力企画

井田秋雄個展

〈ノイエス企画〉

―二度見して畑打ち返す試み―

会期 二月八日(土)～十六日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

展覧会の打合せで井田秋雄先生のご自宅で作品を拝見しながら制作について一時間程お話をうかがいました。若い頃から現在にいたる経歴や人間関係や製作の原点ともいえる貴重な内容でした。

川の流れ、その崖の向こう側に見えるものを見つめ、表現するという事について話をされました。たぶん「群盲象を評す」というインドの寓話の原典からきている「木を見て林を見ず」という真実の多面性と真実に目を向けようとしなくてはという話だったように記憶しています。描かれている風景の向こう側にある作家の真実が構図やマチエールや色彩から感じとれる・・・そんな感覚的に触発されるような時間でした。

今回は、六十号～百号を含む四十数点の展示です。長い間、まとまった作品を見たい・・・と思いつけていた井田秋雄先生の展覧会です。是非、ご高覧ください。

綿貫哲雄作陶展

〈ノイエス企画〉

会期 二月二十二日(土)～三月一日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

綿貫哲雄氏の二年ぶりの個展です。

最近では、「和」の器と同時に「洋」の器も手がけて使いやすしい作品を生み出しています。

近作の数々をお楽しみください。

前橋の美術2020協力企画

4人の作家による3.11

〈ノイエス企画〉

その前とその後

金家秀男・住谷夢幻・多胡 宏・永沼鴻雲(石巻在住)

会期 三月七日(土)～十五日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

二〇一一年三月十一日の東日本大震災による地震、津波、福島原発事故により一八四二八人の死者、行方不明者。そして今なお多くの人々が被災地で日々生活をしています。

表現者として現地を訪れ被災地を歩き、多くの人々に話を聞き、表現せずにはいられなかったと3.11を境にして絵画や版画、書、陶と制作を続ける4人の作家による展覧会です。石巻在住の永沼氏に加え、東日本大震災の前と後の作品を展示し、人間にとつての生と死、生きるとは、家族とは、人と人の繋がりととは、生活とは、医療とは福祉とは・・・多くの問題を提示しながら作品と向き合って再考していただければと思います。

「前橋の美術2020」のパンフレット及び協力企画展を実施しているMAEBASHI GALLERY MAPを同封します。

各ギャラリーの詳細は、各ギャラリーにお問合せください。ノイエス朝日は、展覧会会期中以外は休廊しています。